

奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第2次）

令和 8（2026）年度の実施方針（案）

奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第2次）及び令和 7（2025）年度実施計画の実施結果に基づき、令和 8（2026）年度実施計画の方針（案）を検討した。

1. 被害防除

農業被害アンケート結果に基づき検討した防鹿柵設置場所及び令和 7（2025）年度までに設置した防鹿柵の効果検証結果を踏まえ、設置優先度の高い藤原町（東市地区）において防鹿柵を設置する。なお、奈良阪町（鼓阪地区）においては、平成 27（2015）年度及び令和 2（2020）～令和 7（2025）年度に防鹿柵を設置してきたが、令和 7（2025）年度で設置を完了する。

2. 捕獲

令和 7（2025）年度の実施結果の評価は今後実施予定であるが、令和 8（2026）年 2 月 5 日に上限の 450 頭に達した。

令和 6（2024）年度農業被害アンケート結果から、これまで捕獲を実施してきた地域においても依然として被害が低減しておらず、令和 5（2023）年度の捕獲の効果検証調査（ヒアリング）においても被害意識が高い状態にあると考えられたため、加害個体あるいはその可能性が高い個体の捕獲を行う。効果的に被害低減を図るため、加害個体の出没リスクの高さを踏まえ地区ごとの捕獲数を設定する。

なお、これらの捕獲については、指定管理鳥獣捕獲等事業として実施する。

- ・ 期間

- 許可日以降～令和 9（2027）年 3 月（予定）

- ・ 捕獲手法

- 被害地周辺にわなを設置

- 箱わな、囲いわな、足くくりわな

- ・ 捕獲頭数（上限）

- 下記の全 9 地区で 450 頭

- ・ 捕獲地域

- 令和 7（2025）年度捕獲実施地区の 9 地区（田原地区、東里地区、柳生地区、大柳生地区、狭川地区、精華地区、東市地区、帯解地区、鼓阪地区）の管理地区(D地区)内

3. モニタリング

モニタリングについては、令和 3（2021）年度の第 14 回管理計画 WG において検討した令和 4（2022）年度から令和 8（2026）年度にかけての 5 年間のモニタリング計画（案）（表 1）に基づき、実施項目を選定する。

（1）被害調査

【農業被害アンケート調査】

シカによる農業被害実態の把握を目的としたアンケート調査を行う。なお、当初の計画では令和 8（2026）年度は実施しない予定であったが、令和 7（2025）年度の生息密度調査結果から D 地区の生息密度が増加傾向にあることから農業被害状況の把握が必要と考えられるため実施する。

【防鹿柵の効果検証調査】

令和 7（2025）年度に設置した防鹿柵について、現地立ち会いのもと、防鹿柵設置箇所の耕作者への対面形式によるヒアリング調査により実施する。

【捕獲の効果検証調査】

捕獲実施地域において、被害状況の変化についてヒアリングを行う。調査結果から、捕獲による被害軽減効果を検証する。

（2）生息状況調査

令和 8（2026）年度は調査を実施しない。

保護計画 WG と連携して、天然記念物「奈良のシカ」個体群動態モデル記述（A～D 地区）及び解析のためのモニタリング事項の検討を行う。

（3）捕獲個体調査

捕獲時に、捕獲個体数、捕獲位置、性別、年齢等の捕獲個体の基本的な情報を得るとともに、対策による個体群の状態を把握するための捕獲個体の詳細情報を収集するとともに、下顎、筋肉片等のサンプルを収集する。また、遺伝子解析、歯牙年齢査定等を実施する。

（4）捕獲作業の記録

【CPUE（密度指標）】

「2. 捕獲」の結果にもとづき、CPUE をモニタリングする。

※CPUE（密度指標）：ニホンジカの捕獲数／捕獲努力量（わな基・日数）

4. 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第 2 次）の改訂

奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第 2 次）の評価を行い、奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第 3 次）を策定する。

表 1 モニタリング計画（案）

モニタリング項目		目的	概要	R4	R5	R6	R7	R8
(1) 被害	① 農業被害アンケート調査	対策による被害軽減効果の広域的な検証	旧奈良市域の農協会員を対象に、農業被害アンケート調査票を配布、回収し、被害状況等を把握する	●		●		●
	② 防鹿柵の効果検証調査	防鹿柵設置箇所及びその周辺における被害軽減効果の検証	前年度防鹿柵設置箇所において、耕作者等への被害状況等のヒアリング及び現地調査を実施する。	●	●	●	●	●
	③ 捕獲の効果検証調査	捕獲実施地域における被害軽減効果の検証	捕獲実施集落の一部をモニタリング集落に選定し、耕作者等への被害状況等のヒアリング及び現地調査を実施する。	●	●		●	●
	④ 森林生態系影響調査	森林生態系への影響の評価	SDRにより下層植生の衰退程度を把握する。		●			
(2) 生息状況	① 生息密度調査	対策による生息状況への影響の評価	冬季に糞粒法調査を実施する。		●		●	
(3) 捕獲個体	① 基礎情報調査	捕獲個体の基礎情報の把握	捕獲個体数、捕獲位置、捕獲個体の性、外部計測値の記録	●	●	●	●	●
	② 詳細情報調査	対策による個体群の状態の評価	下顎、生殖器の収集と分析、遺伝子解析用サンプル(筋肉片)の収集	●	●	●	●	●
			遺伝子解析、歯牙年齢査定等				●	
(4) 捕獲作業の記録		捕獲の効果検証のための基礎情報の把握	捕獲に関する情報（わな設置地点、わな設置基数、わな稼働期間、捕獲数、捕獲位置、見回り記録等）の収集	●	●	●	●	●